

備陽史探訪

第 245 号

発行の会
備陽史探訪の会

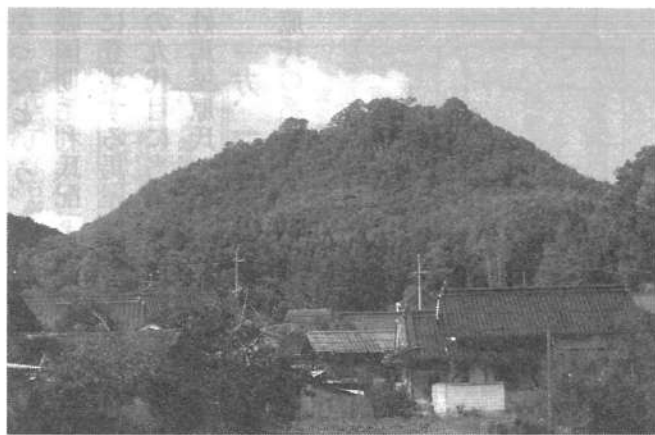
備陽史探訪の会の目的
備後を中心とした
地域の歴史を研究し、
愛郷の精神を涵養する。
(会則第一章第2条より)

備後国衆列伝(24) 神石郡の馬屋原氏

会長 田口義之

はじめに

室町時代、將軍奉公衆の伊勢・宮・杉原氏が勢力を持った神石郡域は、十六世紀に入る頃から三氏の勢力が後退し、それまで史上に現れなかった馬屋原氏が在地勢力として大きく



固屋城址

姿を現した。馬屋原氏一族の中で最初に史上に登場するのは馬屋原兵部大輔信春である。信春は、弘治三(1557)年の「毛利元就他十七名連署」の起請文案に馬屋原氏を代表して署名しており(1)、この頃には備後の国衆として認められる存在になっていたことが確認される。その他、同じ頃には同族と考えられる馬屋原左衛門大夫・同越中守・同備前守が毛利方として活躍しており(2)、天正末年の惣国検地の結果、馬屋原一族は、神石郡内に一六四三石余(年貢取納高)の所領を有する郡内最大の勢力を持つに至っている(3)。

その後、一族の多くは、関が原合戦後毛利氏に従って長州萩に移るが、在地に残った者もいて、その中には江戸時代後期、備後の地誌として有名な『西備名区』を著した馬屋原重帯のような人物も登場する(4)。

神石郡の馬屋原氏に関して、もっとも注目されるのは、同じ名字であ

るのにも関わらず、その出自に関して平姓・源姓の二つの系譜伝承が語り伝えられていることである。馬屋原氏の家系伝承は果たして信用できるのか、私見を述べてみたい。

伝承の中の馬屋原氏

このように、馬屋原一族は、長州藩士、或いは備後の旧家として存続したため、多くの家系伝承を持つに至った。

その代表的なものは、『萩藩閥閥録』巻四十一馬屋原弥四郎家の家系伝承(5)と、備後に残った馬屋原一族が伝えた伝承を記録したと考えられる『西備名区』に掲載された馬屋原氏の家系伝承(6)である。

目次	
備後国衆列伝(24)	
神石郡の馬屋原氏	(会長 田口義之) 1
研究レポート	
中世野上村と寺社II	福山築城と寺社の変転 1
調査報告	
中世石造物の調査報告	(篠原芳秀) 8
行事報告	
ぶら探訪「藤江と山路氏・山路機谷の跡をたどる」	2025年10月19日(日) 9
古文書片手に、	
近田に近世の痕跡をめぐって	(小林悠一) 12
備陽史探訪の会NEWS!	14
読者ノート	
毛利隆元の家督相続の資料より	(川内和夫) 15
ワンショット・レポート	
田口義之の備後の古墳30選	10
前方後円墳か円墳か	17
事務局日誌	掛迫第八号古墳 18

現在の会員数 214名



会員数は12月上旬現在の数字です。その後の増減があるかもしれません。(いっちゃん)

紀要『備陽史研究』の原稿募集

『備陽史研究』は、備陽史探訪の会紀要です。会員の皆様が個々に調査・研究をした成果を発表する場でもありますし、後世伝えたい郷土の歴史を残す場でもあります。

国立国会図書館や広島県立文書館をはじめ、市内図書館にも寄贈しており、広く一般の研究者や歴史に興味のある地元の人々の目に触れる機会も多くなります。

地道に積み重ねてきた日々の研究も、多くの方々の目に触れることができるようになって初めて意義のあるものになりますし、それを元に多くの人が議論することで、郷土史研究は更に深まります。

原稿は、随時募集しています。郷土史発展のために奮ってご応募ください。

【応募方法】

事務局宛て郵送かメール
info@bingo-history.net



備陽史探訪の会 事務局

事務局日誌

- ◇10月11日(土)「近世福山の歴史を学ぶ」参加15名
- ◇10月15日(水)古文書解説会 参加4名
- ◇10月18日(土)「中世を読む」参加15名
- ◇10月19日(日)ぶら探訪「藤江に山路氏の跡をたどる」参加34名
- ◇10月25日(土)「大人の博物館教室」参加25名
- ◇10月26日(日)中世石造物調査 参加3名
- ◇10月31日(金)古文書入門講座 参加10名
- ◇11月1日(土)ぶら探訪「安芸門徒始まりの場所を訪ねる」参加16名
- ◇11月8日(土)「近世福山の歴史を学ぶ」参加21名
- ◇11月15日(土)「中世を読む」参加7名
- ◇11月19日(水)古文書解説会 参加6名
- ◇11月22日(土)「古墳講座」参加10名
- ◇11月22日(土)中世石造物調査 参加3名
- ◇11月28日(金)古文書入門講座 参加10名
- ◇11月30日(日)茨城調査「謎の古代山城「茨城」を探る」参加15名

会報「備陽史探訪」の原稿募集

会報「備陽史探訪」246号の原稿を募集中。備後郷土史に関するものは何でも差支えなし。論文・論考・資料提供・イラスト・写真・俳句・随筆・昔語りなどなど会員の皆様の投稿をお待ちしております。

昭和の頃の何気ない日常の思い出話も、今では立派な歴史の証言。日本中どこを探してもないココだけの歴史情報お待ちしております！

原稿は事務局編集部まで。規定は16文字×120行以内。写真に一行コメントや100文字以内のコメントでもOK。なお、原稿は返却しませんので、必要な方は複製をお願いいたします。また、内容によって、研究レポートや郷土史探訪あるいは読者ノートなど、項目の判断させていただいたり、文字量の調整をさせていただきますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

備陽史探訪の会 事務局

公式サイト <http://bingo-history.net/>
事務局メール info@bingo-history.net

びんご歴史クイズ 62

神辺城に関する質問編

- ①嘉吉三(1443)年八月四日、城を築いたと(備後古城記)される山名近江入道丈休は次の内、誰に比定されていますか？
A山名宗全 B犬橋満泰
C宮田教言 D山名時氏
- ②戦国時代、神辺城主として有名な山名理興の行動の内、正しいのは次の内、どれでしょうか？
Aはじめ大内義隆に従い、後尼子方に寝返った。
Bはじめ尼子経久に味方し、後毛利元就に従った。
C備後守護であったが、守護職を大内氏に奪われたため、尼子に寝返って奪還しようとした。
D毛利元就に従っていたが、後裏切ったため元就に滅ぼされた。
- ③永禄十二(1569)年、神辺城を一時的に奪取した藤井皓玄は、元誰に仕えていましたか？
A尼子晴久 B毛利元就
C大内義隆 D山名理興
- ④天正一九(1591)年、神辺城主となった毛利元康の母は次の内、誰だったでしょうか？
A元就の正妻の吉川氏 B後妻の乃美の大方
C後妻の三吉の大方 D側室の中の丸殿